原 著

歯科学生の保健所実習

松 平 文 朗* 志 村 則 夫* 尾 崎 文 子*
小 菅 充 子* 中 村 千 賀 子* 岡 野 み よ 子*
宮 入 秀 夫**

概要：公衆衛生学の実習は、歯科大学のカリキュラムでは、非常に困難である。

東京医科歯科大学歯学部では、最高学年次の病院実習の中で、後期実習1日を保健所実習に当てている。

内容は保健所業務一般に関する講義、3歳児健康診査の見学、歯科診査の見学及び実習、歯科相談室での母子保健指導の実習である。学生の多くは、実習時間を更に増加することを望み、また3歳児健康診査の中に含まれる歯科診査に関して不満の意を表明している。実習の効果については、時間が少ないため疑問の点も少くないが、公衆衛生面の理解を深めることが出来たと信じている。

医療に対する一つの考えとして、包括医療 comprehensive medicine が主張されている。即ち健康増進、疾病予防、早期発見、早期治療、健康の回復という一貫した流れの中に、予防医学と治療医学を包括したものと理解出来る。私達の歯科医療を考えると、予防が単なるスローガンで、治療とは別個に有るように考えられやすい。歯科大学のカリキュラムの中では、最高学年次で病院実習が課せられているが、公衆衛生面への教育に対する考慮は少ない。

私達の東京医科歯科大学歯学部では、最高学年次は実習が主となり、患者実習と通称される病院での実地研修を修了して、卒業資格が与えられている。この中で当教室が担当する公衆衛生面の実習は、49年度現在で前期1日、後期1日。この後期1日を東京都衛生局の協力を得て、保健所実習としている。

実習の方法

後期(10月)以降の1日、午前9:00～午後4:00、学生3～5名を1班とし、文部教官1名が原則として同行している。

実習に協力を得ている保健所

48年度は、中央、杉並西、下谷、世田谷、小石川保健所の5ヶ所である。

49年度は、中央、杉並西、下谷、小石川、新宿保健所の5ヶ所で、実習を行うことが出来た。これらはいずれも歯科相談室を持つU型保健所である。

実習の内容

① 保健所の業務に関する講義

保健所長から、地域に結びついた実例を最新の資料を混じえて講義を受け、時には保健所の外へ出て、管内施設の検査に同行した。

* 東京医科歯科大学歯学部予防歯科学教室（指導：大西正男教授）

** 東京都衛生局

* *Department of Preventive Dentistry, School of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University.*
(Director: Prof. Masao Onisi)

** *The bureau of Public Health*

昭和50年3月31日受付

② 3歳児健康診査

- a. 3歳児健診の見学
- b. 歯科診査の見学と実習
- c. 歯科相談室での保健指導の実習

歯科診査を担当された 歯科医の指導を受けて、3歳児の歯科診査を行い、次いで10人前後の母子の前で歯科衛生士の援助を受けて、保健指導を行った。

実習に関する調査

私達はこの保健所実習の内容を検討し、今後の実習を企画する資料として、質問紙による調査を行った。調査対象49年度卒業生80名、48年度卒業生57名である。

48年度卒業生については、本学および近接の鶴見大学歯学部、東京大学医学部口腔外科等で卒後研修あるいは教官等として在籍するものであるもので、名簿を作成し、代表者に用紙と共に手渡しして、配布と回収を依頼した。49年度卒業生については、実習が終了後、随時用紙を配布、記入して提出してもらう方式をとった。

調査用紙の回収成績は、48年度卒業生45枚(78.9%)、49年度卒業生48枚(60.0%)であるため、回答に関して著しい偏りはないと考えられる。回答についての詳細は別表のようである。

質問に若干の不備があるが、注意すべきことは、歯科保健指導の経験が極めて少ないこと、3歳児健康診査中の歯科診査に不満を示すものが多いこと、保健所実習の現場に出てこれまでの教育内容に不満を示すものが多いことである。

実習の結果

私達の大学の学生は比較的恵まれた教育環境の中で、病院実習を行い、歯科疾患の処置状況も良好な患者を病院の中でみている。しかし、一步大学の外では、自分達とは異った概念が有り、特に小児の歯科疾患に対して無力である現実に大きな衝撃を受けたものが少くない。歯科公衆衛生面での無策と言っても良い現在の状況を厚生省等の行政機関の責任を追求するのではなく、自分達が解決すべき問題であると考えようになった。質

表 1 保健所実習に関する調査のまとめ

・実習の実施方法で、適当なものはどれか	48年度 卒業生	49年度 卒業生
1. 後期1日	3	7
2. 前期1日と後期1日	10	16
3. D ₄ で1日とD ₈ で1日	23	17
4. その他	6 (不明 3)	8
・実習の時期で適当なものはどれか		
1. D ₈ 後期ポリクリ実習の中で	23	20
2. D ₄ の初め(4~6月)	15	9
3. D ₄ の終期(12~1月)	12	4
4. 現在の方式(10~12月)	4	9
5. 暑中休暇	5	12
・歯科保健指導をこれまでにやったことがあるか		
1. ある	6	9
2. これまでに無い、実習で初めてである	19	21
3. // 実習でも行なわなかった (歯科保健指導の意味を集団指導に限定)	15 (不明 5)	18
・3歳児健康診査全般に知識がある (yes 回答)	21	30
・歯科診査を実習で行った(yes 回答)	32	37
・その時に、現場で適切な指導があった (yes 回答)	22	23
・歯科診査の内容については		
1. これで十分である	18	13
2. 不満である	22 (不明 5)	30 (不明 5)
・保健所で講義を受けた(yes 回答)	37	45
・講義を行ったのは誰か		
1. 保健所長	26	35
2. 総務課長	1	1
3. 予防課長	3	0
4. その他(専任の歯科医:杉並西, 中央保)	7	9
・講義の内容について		
1. 十分に知っていた	4	9
2. 知らなかった	23	26
3. その他	10 (不明8)	10 (不明3)
・これまでの教育内容で十分であったか		
1. 十分である	11	10
2. 不満である	30 (不明4)	27 (不明11)

問紙の最後尾に感想を記入してもらった。実習時間が極めて短かいことに対する不満がかなり有り、「規定の実習の他に、希望者には更に実習が出来るように便宜をはかって欲しい。」「東京都以外の保健所で実習できるように大学から紹介状を出して欲しい。」「規定の実習がノルマであるような

感を与えない実習指導をお願いしたい。」とあったことには、大変反省させられている。

予期しなかった収穫の一つは、歯科相談室を運営している地区歯科医師会の歯科医に尊敬の念をいただいたことである。提出された報告書のあるものには、次のように記されている。「3歳児歯科健診は、3人の歯科医によって、行なわれていた。そのうち2人により午前中の健診が行なわれ、罹患児が発見されると別室に集められ、母親教育が他の1人の歯科医によって行なわれていた。(中略)午後は午前中の健診で問題になった罹患児を持つ母親と個別相談に応じ、フッ素塗布の予約も受付けていた。(中略)ごくわずかの謝礼でほとんど奉仕のような形で行なわれている。その献身的な姿勢には従来の開業医のイメージからは、考えられないものであり、感銘を覚えた。」地域社会と結びついた歯科医師像を見せていただいたことに、私達は心からの敬意を表するものである。

む す び

保健所活動の意義は、これからも公衆衛生面で重視されるだろう。実習に出席して、その複雑な業務を理解すること、歯科相談室という窓口を通して community とつながりを持つこと、公衆衛生の理念を実践できる health man power の一員として自覚を持つこと等が重要であると考ええる。特に3歳児健康診査については、歯科医師の健康診査をも含むものであることを認識し、同時に幼児のう蝕問題、保健衛生をなまの形で学ぶ最良の機会である。歯学生の臨床教育と呼ばれるものが、大学附属病院の外来実習のみに終ることを反省し、他の関連施設での実習が考えられる時が来るであろう。それまでの過渡期である現在、時間的には不足であるが、保健所実習の意義は小さくない。

「大学附属病院という一般社会から隔絶された所で、診療が行なわれているのを見せられるだけなので、社会への眼がひらかれることなく医師となり、ここに視野の狭い人間性が余り豊かでない

医師がかたち作られているのではないだろうか。日本の医療の大半は市中病院、診療所で行なわれているのである。」これは医学教育への提言¹⁾の文中から引用させていただいた。このような医学教育への厳しい反省を私達歯学部教育担当者は他山の石とし、教育の責任を改めて痛感するものである。医学生の実習課程にある保健所実習²⁾³⁾⁴⁾はインターン実習の一部として行われて以来かなりの実績を持つものと推察できる。

しかしながら、これを模倣するのではなく歯科医療にも独自の考察が出来るようにすることが私達の任務であると考ええる。この任務が達成できなくては、歯科大学の閉鎖的教育内容の改善は困難である。私達の実習は時間数も少く、内容も不十分なものであるが public health mind を持つ歯科医師を養成するの一つの手がかりとなることを信じている。

謝 辞

業務多忙の中で、学生指導に御尽力をいただいた山崎悦先生(中央保健所長)、則松正二先生(杉並西保健所長)、青山好作先生(下谷保健所長)、森本忠良先生(新宿保健所長)、渡辺真言先生(小石川保健所長)、高橋恒夫先生(前小石川保健所長)、仲井正雄先生(前世田谷保健所長)、各保健所職員の皆様、特に歯科衛生士の方々に心から感謝いたします。

御協力をいただいた小石川、下谷、新宿、世田谷歯科医師会の諸先生に心から感謝いたします。特に小石川保健所歯科相談室々長山崎真弘先生には、数々の助言と指導をいただき、重ねて御礼を申し上げます。

御指導、御校閲をいただいた大西正男教授に感謝いたします。

文 献

- 1) 立沢 寧：医学教育の現状，医学のあゆみ，81：621，1972.
- 2) 諸岡好子，他：医科学生の公衆衛生現地訓練，日本公衛誌，17：331-335，1970.
- 3) 西川慎八：医学生に対する保健所実習，日本公衛誌，18：10，192，1971.
- 4) 清水はつ：保健所における公衆衛生の実習について，日本公衛誌，18：10，193，1971.

Abstract: A Training of dental student in Health center, Fumio MATSUDAIRA*, Norio SHIMURA*, Fumiko OZAKI*, Mitsuko KOSUGE*, Chikako NAKAMURA*, Miyoko OKANO* and Hideo MIYAIRI**. Public health is important in this country, but practical training in it is very difficult at the under-graduate level of dental school.

We tried a new teaching program under auspices of the several health centers in Tokyo for the training of students. Students listened to lectures from health officers about pollution, poisoning and other community problems.

They learned the examination method for 3-year-old children on the national health program, and they practiced the dental examination of these children. They had a chance to counsel mothers and children regarding dental health education. This training may result in significant changes in their public health mentality.